天地人

宇都宮商工会議所会報　1997-1/10 VOL.400

発行所 宇都宮商工会議所
〒320 宇都宮市中央３-１-４
☎ 028-637-3131
FAX 028-634-8694
編集兼発行人 日向野 三郎
印刷所 (株) 松井ピ・テ・オ・印刷
会員の購読料は、会費に含まれています

主な内容

年頭所感 藤井会頭・渡辺知事・増山市長…１頁
日商稲葉会頭・当所日向野専務理事……２頁
委員長・部会長の'97今年の抱負……４～５頁
都市活性化シンポジウム
魅力ある宇都宮都市圏への挑戦(No.1)……６～７頁

ベンチャー精神発揮し　情報化促進

創造的挑戦と変革を

栃木県商工会議所連合会会長
宇都宮商工会議所会頭

藤井　清

都市活性化へ　連携拡充

中小企業支援諸施策を推進

穏やかな日差しの中で、皆様とともに新しい年を迎えられましたことを心からお慶び申しあげます。

昨年は宇都宮が市制施行100年目を迎え、また、中核市としてもスタートを切る記念すべき年でありましたが、当所では100周年を祝賀して会員各位のご協力をいただきながら多数の協賛事業を実施いたしました。

とくに、これらの事業は１千年の歴史を持つ「宇都宮」の歴史的資源や文化を掘り起こして現代に再現するイベント性を重視し、かつての商都や城下町をイメージする新しい「賑わい」を創出する都市活性化の事業でもあり、市民の皆様をはじめ多くの方々のご賛同を得たものと確信いたしております。

長びく不況による閉塞感が蔓延する現下の経済環境でありますが、このような時こそ民間の英知を結集し、行政と手を携えながら地域活性化に取り組み、「都市の魅力」を再発見しつつ都市基盤整備や街づくり、ひいては雇用問題、構造改革等への課題解決に向けて、地域自ら行動することが強く望まれており、このための官民一体となった「街づくり推進組織」創設につきましても、鋭意検討を重ねております。

また、経済圏域の広域化に伴い、産業活動がグローバル化、ボーダレス化してますます地域連携や情報の交流が緊密化し、地域間競争が活発化していく傾向にありますが、これらも新しいビジネスチャンスの到来として把え、時代ニーズに対応した新産業育成や新分野開拓事業に向けての創造的な挑戦と変革を押し進めなければなりません。

さらに数年にわたり論議が続けられている国会等の移転問題につきましては、いよいよ「国会等移転審議会」の場へ移り、実現に向けての検討が進められようとしておりますが、今年こそ生活者・企業人・行政が一体となり、新首都の理想像を模索して豊かな県民生活が享受できますよう、皆様とともに移転促進運動を展開してまいりたいと存じます。

その中でも本市は、新首都の母都市としてテクノポリス地域の一層の開発促進や、中心市街地・JR駅周辺整備等での高次な都市機能の強化が求められると想定され、ますます発展が期待されております。

私ども商工会議所といたしましても、行政との一層の連携強化の下で組織の全機能を発揮し、21世紀へ向けて次世代の栃木県・県都宇都宮の街づくりに寄与してまいりたいと存じます。

以上、新年にあたりまして所懐の一端を申しあげましたが、会員の皆様並びに関係各位の悠久のご発展を祈念いたしましてご挨拶といたします。

宇都宮市制100周年
うつのみや城址まつり
商業祭開催委員会
宇都宮商工

市民はじめ多くの人々で賑わった
市制100周年協賛事業
「うつのみや城址まつり」

21世紀の鼓動が弾む 心豊かなふるさとづくり

栃木県知事

渡辺　文雄

明けまして、おめでとうございます。今年も皆様とともに、新しい年を迎えることができました。心からお喜び申しあげます。

私は、昨年12月の知事選挙におきまして、多くの県民の皆さまからのご支持をいただき、引き続き県政の舵取りを担わせていただくことになりました。

この間、私に寄せられました県民の皆さまの温かい励ましと力強いご支援に対し、心から感謝を申しあげます。私自身、県勢発展のため、さらに全力を傾けていく決意を新たにしているところです。

私達のふるさと〝とちぎ〟は、豊かで美しい自然やすぐれた歴史と伝統、有利な地理的条件、発展する多彩な産業、そして誠実で勤勉な県民性など、未来に向けた限りない発展可能性を有しています。21世紀の鼓動が聞こえてきた今、これらのふるさと〝とちぎ〟の特性を十分に活かしながら、来るべき〝とちぎ〟の新しい時代に向けて、心豊かなふるさとづくりを進めていくことが、私達に課せられた大きな責務であります。

私は、昨年、新しい県の総合計画である『とちぎ新時代創造計画第３期計画』を策定いたしました。この計画の２年目にあたる本年は、計画の実現に向けた道筋をしっかりとするため、諸施策を積極的に展開していくことが極めて大切であり、産業の振興につきましてはこの３期計画の部門編として策定した「とちぎ産業振興ビジョン」に基づき、創造的な活動を行う企業や個性ある技術を持つ企業の育成など、本県産業の発展に向けた施策を着実に推進してまいる考えであります。

また、本年は３月に〝花街道、夢広場〟をテーマとして、「ジャパンフラワーフェスティバルとちぎ'97」を宇都宮市で開催いたします。全国から多くの人々を本県にお迎えし、本県のイメージアップを図るとともに、花のある生活文化の創造と首都圏農業の推進に大きな役割を果たすものと期待をしております。県民の皆様の積極的なご参加とご協力により、是非とも成功させたいと考えています。

なお、首都機能移転につきましては、国において国会等移転審議会が設置され、その具体化に向けた調査審議が始められたところであります。県といたしましても、ふるさと〝とちぎ〟の豊かな未来を築くため、県民の皆さまのご理解をいただきながら、積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

今後とも、「県民の皆さまとともに考え、ともに歩む」ことを基本といたしまして、県民の皆さま一人ひとりが希望をもって21世紀を迎えることができますよう、全力を尽くしてまいりますので、皆さまの一層のご理解とご協力をお願い申しあげます。

年の初めに当たり、私の抱負の一端を申し上げますとともに、ご多幸とご健勝を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。

21世紀視野に 新しい街づくり推進

宇都宮市長

増山　道保

平成８年は、市制100周年という記念すべき節目の年であったとともに、中核市移行という、本市にとりまして大変重要な意義深い歴史的な年でありました。

こうしたなか、道路や下水道など身近な生活環境の整備をはじめ、平成記念子どもの森公園、農林公園などの主要施設の整備、さらには地域独自の創意工夫により展開された100周年記念地域イベント等、関係各位並びに多数の市民の皆様方のご支援・ご協力をいただきながら、主要な施設や事業を進めることができた年と感じております。

さて本年は、市制100周年の総括の年であるとともに、これを契機といたした21世紀に向けた新しい街づくりの第一歩をしるす年であると考えております。

また、市制100周年記念事業を通じて、培われた郷土宇都宮の誇り、愛着心を次代を担う子どもたちへ、そして、次なる200年へと確実につないでいく年であるとも考えております。

このため、これからの街づくりの指針となる第４次総合計画の策定を行うとともに、21世紀への足がかりとなる総合運動公園、宇都宮駅東口周辺整備等の大規模なプロジェクトの推進、さらに、新清掃工場の建設、老人保健福祉計画等の着実な推進を図り、併せて都心部の活性化、地域情報化の推進にも積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

21世紀まで残すところあとわずかでありますが、地方分権の進展、広域都市圏における本市の役割等を十分に踏まえながら、組織機構の簡素化、民間委託の推進等、行政改革に積極的に取り組むとともに、来る新世紀に向けた街づくりへの確固たる基盤づくりを行い「ゆとりと豊かさが実感できる宇都宮づくり」に向け、今年もより一層の努力をしてまいりますので、皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

新たな時代創造する中長期ビジョンを確立

宇都宮商工会議所
専務理事 **日向野 三郎**

平成9年の新年を迎え、皆様とともに謹んでお慶び申し上げます。

新年は市制施行100周年を迎えての第一歩として、また中核市となって2年目が到来する重要な時期であります。「1年の計は元旦にあり」とはよく申したもので、100年の計の良し悪しが今後に多大な影響を及ぼすことを想定した場合、軽率に歩んではならない年、つまり「牛歩の如く」沈着冷静に事に処し、想いを21世紀の宇都宮発展の絵姿として描きながら、既成観念にとらわれず迅速にして効率的に牛歩を進めることが肝要かと考えております。

新年にあたり宇都宮商工会議所運営の、21世紀へのあるべき姿を申しあげたいと思います。

当所は、明治26年8月12日に認可・設立以来、戊辰の役で廃墟と化した市街地の復興に尽力することから始まったといっても、過言ではありません。多くの先人達の意志と理想を受け継ぎながら、104年の永い歴史を辿り今日に到っておりますが、その間、数多くの商工業者として地域社会の厚い信頼と支持に支えられ、数々の提言を試み時流に応じた諸事業を展開してきたところであります。

現在、国の内外において大きな転換期を迎えようとしておりますが、宇都宮を取り巻く環境変化のスピードも、加速度的に進行しており、典型的な商業特化で栄えてきた、宇都宮都市圏の方々からは、「ゆとりがある」・「宇都宮らしい」・「豊かな人情」等々、羨望の声が聞こえてまいりますが、産業基盤全体の脆弱さは否定できません。景気回復の兆しが見え始めた今日においても、とくに中心部の地盤沈下傾向進行の懸念を消去できないと言わざるを得ないのであります。

地方都市の魅力は、何よりも日常生活圏における質の高い都市機能が、コンパクトサイズにまとまっていることであり「職住近接」こそが、「ゆとり」あるライフスタイルを生み出すことを再認識する必要があり、こうした情勢にあって、商工会議所の存在・使命そして責任は、地域社会においてますます大きくなることを痛感しているものであります。

そのためには21世紀に向け、商工会議所自身の中長期ビジョンを確立し、栃木県、宇都宮市、並びに関係機関が策定している各々の地域ビジョンとの連携強化への体制づくりの必要性が到来しております。

本年は商工会議所は、その「原点」に立ち返り、既存フレームにとらわれず地域経済・社会に貢献することが、商工会議所の存在価値であることを再認識することが肝要であります。

各々の課題について一体として事業展開を推進し、地域並びに当所が新たな飛躍を遂げるための行動指針とすることが重要であります。

商工会議所の現在の基本理念は、

一、開かれた魅力ある会議所づくり
一、信頼され親しまれる会議所づくり
一、行動する会議所づくり

でありますが、以上の基本理念の精神は普遍として時流に即した具体的な行動目標をプラスワンとして設定し、地域社会と地域産業に一層貢献できる商工会議所の実現を目指し、行動を展開していくことが重要であります。

その基本目標とするところは、

一、生活創造支援団体としての展開
一、地域のシンクタンクとしての基盤の確立
一、地方主権のけん引役

ではないかと考えます。

その具体的施策としては、

一、会議所組織と人材の充実と活性化
一、情報発信機能の充実強化
一、財政基盤の強化と積極的な運用
一、地域振興への積極的な参加
一、社会問題への積極的な取り組み

以上が考えられます。

その意味において、商工会議所事業は「思いつき」であってはならず、社会経済の大きな変革＝〃ビッグウェーブ〃に耐え得る地域構造と地域経済を強化する必要があり、当所が進めている地域の独自資源の発掘や、見直しによる付加価値を付けた街づくりも肝要と認識いたしております。

そのため本年は、かねて提唱している民間の英知による「都市づくり推進組織」を創設し、官民一体となってあらゆる分野で創造的な事業を試行することにより、地域の独自資源の発掘見直しから、個性豊かな地域色を前面に打ち出していくことこそが最も重要であり、それに対する積極的な取り組みこそが「県都・雄都宇都宮」を実現できるものと考えております。

以上、年頭にあたり所懐の一端を申し述べましたが、会員の皆様と役職員が一丸となって、その使命達成に努めて参る決意でありますので、皆様のご支援、ご協力を心からお願い申し上げる次第です。

ビジネスの国際化に対応
景気浮揚の愁眉開く

日本商工会議所
会頭 **稲葉 興作**

平成9年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨今の地球規模での大きな社会・経済構造の変革の流れを見ますと、国際的な相互依存関係の深化が進む一方、経済のグローバル化の中で世界的な市場経済化と大競争時代が到来しております。わが国が来るべき21世紀に向けて活力と創造性豊かな経済社会を構築するためには、国際社会との調和を図りつつ、新たな産業の創造や新技術の開発に取り組むことが肝要であります。そのためには規制緩和をはじめとする経済構造改革への積極的な取り組みにより、経済活力の再生を図ることが不可欠であり、さまざまな分野で思い切った諸改革を断行していかなければなりません。「企業が国を選ぶ」時代を迎えた今日、わが国産業の空洞化を回避するとともに経済活動の活力を維持するためにも、国民自身が痛みを乗り越えてその実現を期待するものであります。

昨年の日本経済を顧みれば、年初から年央に向けては一昨年秋に打ち出された総額14兆円を超える過去最大規模の総合経済対策の効果や、為替相場の比較的に安定した推移により、企業収益や生産面での経済指標にも改善の兆しがみられ、ようやく自律的な景気回復への期待が膨らみました。しかし、年末にかけて政府公表の指標の動向とは裏腹に、国民の実感としてはまだ足元からの景気回復感にはほど遠い状態が続いていると認識しております。極めて先行き不透明な経済状況の中で、引き続き厳しい経営を強いられているのが現況でありましょう。もとより中小企業経営者は常に時代の変化を捉え、新たなニーズに即応した技術の開発や市場の開拓、経営ノウハウの導入などの経営革新に努めるべきであることは申すまでもありません。しかしながら、世界的に経済構造の変革が急務である今日、単にわが国産業の活性化の面からのみならず、世界経済の成長に寄与する新たな産業を興すシーズとして、意欲ある中小企業を育てていかなければならないことは、地球的な課題でもあると思います。

このようにわが国経済社会が大きく変わりつつある今日、地域総合経済団体としての商工会議所の責務は一層、重みを増しております。日本商工会議所は、商工会議所ネットワーク（CIN）の構築など「21世紀へのアクションプログラム」に鋭意取り組んでおりますが、さらに各地商工会議所との連携を深めつつ来るべき21世紀を見据えながら景気問題、地域振興、中小企業支援、国際交流など、160万会員の声を反映した活動の展開に今後とも努めて参りたいと存じます。

新年おめでとうございます

皆様のご繁栄ご多幸をお祈り申しあげます
宇都宮商工会議所役員・議員一同

会頭	藤井 清
副会頭	柳田 美夫
〃	簗 郁夫
〃	出射 聡明
〃	荒井 祥
専務理事	日向野三郎
常務理事	宇梶 保郎
常議員	篠崎 一郎
〃	増渕 幹男
〃	木村 波二
〃	鈴木勘次郎
〃	坂本恒五郎
〃	亀田 賢治
〃	関口 正男
〃	田嶋 光男
〃	檜山 道
〃	高橋栄次郎
〃	上野真之助
〃	箕輪 勝朗
〃	上野 文昭
〃	丸田 一郎
〃	松井 弘
〃	堀井 毅
〃	保坂 正雄
〃	鈴木 貞夫
〃	河合 耕吉
〃	柳田 孝
〃	河上 陽二
〃	鈴木養之助
〃	小滝 清
〃	服部 吉雄
〃	保坂 正次
〃	柿沼 賢
〃	上野 勝弘
〃	粕田金一郎
〃	斉藤 高蔵
〃	中川善一郎
〃	北村 光弘
〃	加治 朋彦
〃	八城 光男
〃	小林 丘
常議員	増渕 秋雄
〃	松下 良
〃	渡辺 行蔵
〃	小林 辰興
〃	舘野 弘一
監事	福田 恭之
〃	松本 典文
〃	青木 利光
議員	坂井 友衛
〃	松丸 俊夫
〃	鈴木 進
〃	矢野 文郎
〃	高橋 行男
〃	竹石 俊太
〃	福田 直司
〃	大谷 伸
〃	野沢栄一郎
〃	鈴木 孝助
〃	田辺 幅一
〃	田中 宏
〃	大平 一巳
〃	高柳 實
〃	瓦井 利宗
〃	堀井 宏祐
〃	高橋 陸夫
〃	大平 泰三
〃	船田 武彦
〃	藤原 宏史
〃	渡辺 勇雄
〃	福田 治雄
〃	中村太三郎
〃	植木 啓之
〃	秋山 勇
〃	宇賀地正治
〃	高田 秀夫
〃	菊池 功
〃	上野 泰男
〃	鈴木 秀治
〃	村上 肇
〃	田代 好孝
〃	上野 晃一
議員	石下 和毅
〃	梶 浄
〃	松井 正之
〃	赤塚 博実
〃	林 虎彦
〃	印南 尚彦
〃	谷 逸夫
〃	青木 直樹
〃	奥田 慶一
〃	池田 克雄
〃	林 明彦
〃	天引 忠樹
〃	落合 達男
〃	新井 好二
〃	鶴見 貞雄
〃	花咲 実
〃	宮崎 守
〃	檜山 幸雄
〃	山田 義雄
〃	柿沼 宏
〃	青木 勲
〃	北村 長栄
〃	小川 喜唯
〃	加賀田敏雄
〃	笠原 正人
〃	菅 勝輔
〃	半田 芳正
〃	関口 快流
〃	辻 裕司
〃	渡邊 幸富
〃	桑田 昭
〃	笠間 陽一
〃	渡辺 壮平
〃	鈴木 力
〃	小堀 康夫
〃	中島 理
〃	宮本 隆昌
〃	藤本 震一
〃	柴田 恒男

’97はどうなる
企業からの景況展望

マルチメディアが育む豊かな社会

日本電信電話㈱
栃木支店 支店長
島崎 謙二

平成8年の景気は、個人消費等の民需中心の緩やかな回復が見られました。

情報通信の世界においては、昨年来、パソコン・インターネットを中心としたマルチメディア市場が急速に拡大しております。NTTといたしましても、インターネット等のマルチメディアサービスに適したISDNサービスを提供してまいりましたが、急速な展開を見せております。また、本年4月より、基幹回線向けのOCN（オープンコンピュータネットワーク）をサービス開始しますので、より多様なマルチメディアサービスの利用が可能になると考えております。

昨年11月には、マルチメディアが育む豊かな社会を目指し、宇都宮において「NTTマルチメディアビジネスコレクション’96」を開催しましたが、今回のイントラネット構築等のニーズに対しまして、ソリューションビジネスの形で県都宇都宮市の情報発信に少しでもお役に立ちたいと考えております。

一方、従来の電話につきましても昨年はスーパーテレワイズやボイスワープなどの新サービスの販売を開始しましたが、本年も引き続きサービスの充実に努めていく所存でありますので、今年も、より一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

地域発展のために

松下電器産業㈱
関東支店 支店長
新見 徹

’96年の電子機械業界の国内の動向は、半導体低迷の中で移動体通信・パソコン等の情報通信分野を軸とした需要拡大が好調に推移、’97年においても半導体の回復、パソコンの伸長が期待でき、日本経済全体の成長に比べ高い成長が見込まれています。

この数年間に、携帯電話パソコンをはじめとして多くの新しい商品が生まれ、今後も世界的な情報化社会の進展に伴い、より一層の発展が望めます。そのなかで本年は、昨年後半にスタートしたDVD関連機器やデジタル衛星放送の本格化、NTT、OCNサービス開始とそれによるインターネットの普及加速等々「デジタル革命」と言われる社会のデジタル化が進行し、21世紀の姿が見えてくる年になるのではないでしょうか。

そのように考えますと、’97年は当業界のみならず、行財政・経済構造・金融システム等の改革で、日本全体が21世紀への流れを決定する年になるのではないでしょうか。

当社においても、21世紀をむかえるにあたり、「世界のお客様に最高の満足をお届けする会社」を目指した取り組みがスタート致します。

私なりに「お客様に最高の満足をお届けする」とはと考えますと、従来からのハートだけの提供に加え、ネットワークやコンテンツを含めたマルチメディア社会への総合サービスを提供することではないか、そしてこれはお客様の身近で、お客様の立場になってこそ実現できるものであり、地域に根ざした活動にこそ原点があると感じています。

現在、栃木県において松下グループは約7、000人がお世話になっております。地域発展のために、いかに貢献できるか、従来にも増して活動を進めてまいる所存です。

今後とも一層のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

ショールーム「リビングプラザ」には
ナショナルブランドが勢揃い

おかげさまで100周年

山一證券㈱
宇都宮支店 支店長
荒木 政史

振り返ってみますと、’96年も’95年に引き続き、実に波乱に満ちた年だったと思います。橋本政権の誕生から始まり官僚機構の金属疲労による腐敗で幕を閉じるなか、景気の回復にも今一歩の力強さがなく、果して’97年はどんな年になるのかと考えただけでも身が引きしまる思いです。’97年の注目点はまさに構造改革と規制緩和の2点ではないでしょうか。橋本政権が重要課題として揚げる行財政改革や土地政策など構造対策が実行され、規制緩和による経済・産業の活性化が株価の回復に欠かせない条件だと思います。特に金融・証券の自由化、「日本版ビッグバン」の実現により、’97年は私たちの業界にはかつてない「産みの苦しみ」の始まりといえるでしょう。激しい競争が予想されると同時に、地域において営業の質が益々重要視されるに違いありません。その上今年は当社におきましては、おかげ様で、創業100周年という記念すべき年にあたります。諸先輩方の残して下さった足跡に万感の思いを馳せると同時に、新たなる一世紀に向けて、地域に密着し、お客様の満足度向上に徹し、いつまでも愛されるベストアドバイザーを目指し、社員一同よりいっそう自己研鑽に努めていきたいと考えています。今後ともいっそうのご指導ご支援を賜わりますよう、どうぞお願い申し上げます。

親切・丁寧な社員が
迎えてくれると評判

ベストウィズクラブが発会

日本団体生命保険㈱
宇都宮支社 支社長
霜田 次夫

平成8年は保険業界にとりまして、激動の年でありました。

我国の経済・社会は安定成長への移行とともに、金融の自由化・国際化の進展・高齢化社会への移行・高度情報社会の到来等、顕著な変化に直面しその進行速度はめまぐるしいものがあります。こうした変化に伴い国民の保険に対するニーズが増大・多様化し、保険事業の担うべき役割がますます重要となって来た中で、保険事業を律する基本法である保険業法が、56年振りに「規制緩和」・「自己責任主義」・「契約者保護」・「情報公開」と時代の流れに添う形で改正され、10月から生損保相互参入が具体化し、生保会社は43社が競争をしていくことになりました。従来、護送船団といわれていた業界が一気に激しい荒海に船出した訳で、各生保会社が試練の時代を迎えました。その中で生き残るためには、会社の企業体力、商品開発力、営業マンの質等々、顧客のニーズに応えうるかがカギになると思います。

当社は、全国の商工会議所・商工会特化の生命保険会社として活動していきます。この競争に打ち勝つため、会社体力の強化・自己資本充実の観点から、10月に資本金の増資を行ないました。また、12月には全国の商工会議所から賛同を得て、専務理事の方々の自主運営であります「ベストウィズクラブ」が発会致しました。商工会議所共済制度の更なる発展を目指して、当社への意見具申をいただき、会員事業所の福利厚生制度に寄与し、共に（ウイズ）栄えてまいりたいと考えております。

’97を展望する

平成ネットワーク理事長
㈱みのわ代表取締役社長
箕輪 勝朗

’97年の景況を展望するにあたり、景気に影響を与えている要件は何かを見て見ると、金融に関して楽観する条件にないことは明らかである。企業マインド、消費マインドの冷え込んだ状態は続いている。一部若者の消費の活発さが見られるものの、大勢を揺るがすには至らない。

従来の政府の施策であった公共投資や利下げが効を奏すことが少なくなってしまったのは何故なのか?。加えて、経済のグローバル化で、為替問題や工場の海外進出が国内景気に良い影響を与えているのだろうか。

新聞紙上では緩やかながら回復基調と伝えられるが、その実態は優勝劣敗で、勝ち組と敗け組の二極分化が着々と進行し、トータルで横這いであろう。リストラに励む大企業、経営力を弱めて行く中小企業、その較差は鮮明となると予想する。「規制緩和、自由競争が国際競争力を伸ばす」と日本中を駆廻っているが、裏を返せば「弱肉強食」、「中小企業よクタバレ」とも聞こえる。’97年はますますその厳しさを覚悟して対処しよう。今年以上に経済苦境時を読む。採るべき対策は2つ、収入を稼ぎ出すことと、経費削減すること。残業、夜なべ、休日営業、週40時間労働などとは言っていられない。新時代の到来はその後である。

経営体質の弱い企業の破綻を危惧する1年になろう。

堅実経営をモットーに躍進を続ける㈱みのわ

発想を変えて新たな行動を起こそう

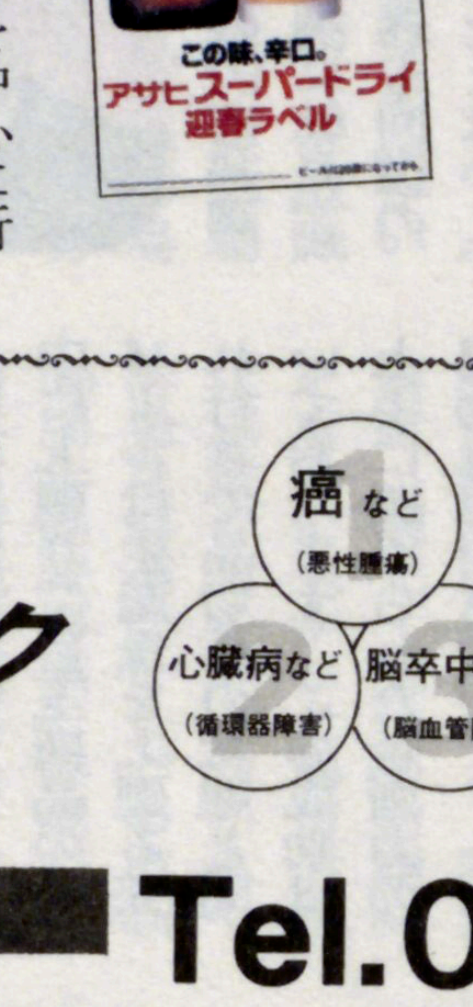
アサヒビール㈱
栃木支店支店長
入内島 久

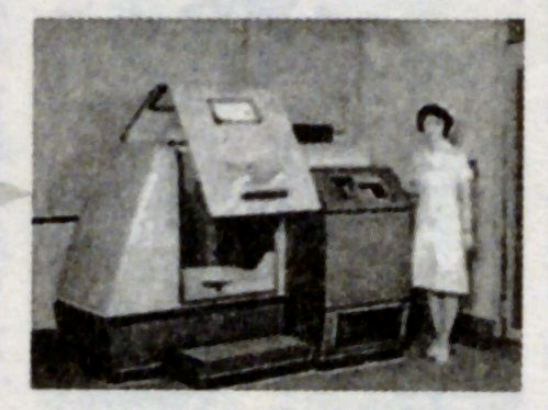
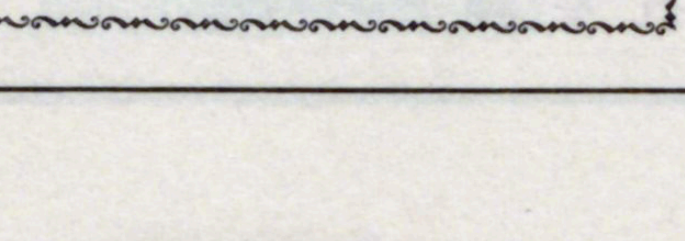
昨年の我国経済は、明るい兆しが見えてきたとはいうものの、その景気回復のテンポは極めて緩やかであり、個人消費につきましても、力強さに欠け一進一退の状況が続いて居ります。

ビール業界に於いても、近年に増して、積極的なマーケティング活動が展開されましたが、一方で価格競争の激化、小売り業態分化の進展、卸の再編・統廃合等、ここ数年変化が益々顕著となり、業界全体では、8月以降の天候不順等により失速し、結局年間で若干のプラスにとどまった厳しい1年となりました。

弊社は「革新挑戦新時代を拓こう」をスローガンに掲げ、全社一丸となって、お客様のご満足とご信頼を頂く為の取り組みを進めてまいり、スーパードライが大変大きな伸びを示し2桁増を頂戴する事が出来、実に37年振りにシェア30%を超えたものと推定され歴史的な年とする事が出来ました。

さて、本年の我国経済は4月に予定されている消費税率アップを始めとして、引き続き多くの課題を抱えて居りますが、「ASAHI新時代発想を変えて、新行動を起こそう」を本年のスローガンの基、今後共スーパードライを中心に新しい個性のある商品をお客様にご提案申し上げ、ビールの新しいおいしさ、楽しさを広める事により、ビールの需要を創造し市場を拡大していくことに挑戦し続けていく所存でございます。


春を迎えるうまさです。スーパードライ。
Asahi
この味、辛口。
アサヒ スーパードライ 迎春ラベル

年に一度は
人間ドック

癌など（悪性腫瘍）
心臓病など（循環器障害）
脳卒中など（脳血管障害）

最先端テクノロジーで正確な診断を！

完全予約制 Tel.028-634-2100

■実施日■ 月曜日～土曜日の午前7時30分より正午迄。 但し、祝日は除きます。（終了時間が多少遅れる場合があります）

医療法人社団竹山会
青木医院
〒321 宇都宮市元今泉1-3-11 Tel.028-634-2100

●診療時間●
9：00～12：00
1：30～ 6：00
（木曜のみ5：30迄）
●休 診 日●
日曜日・祝日

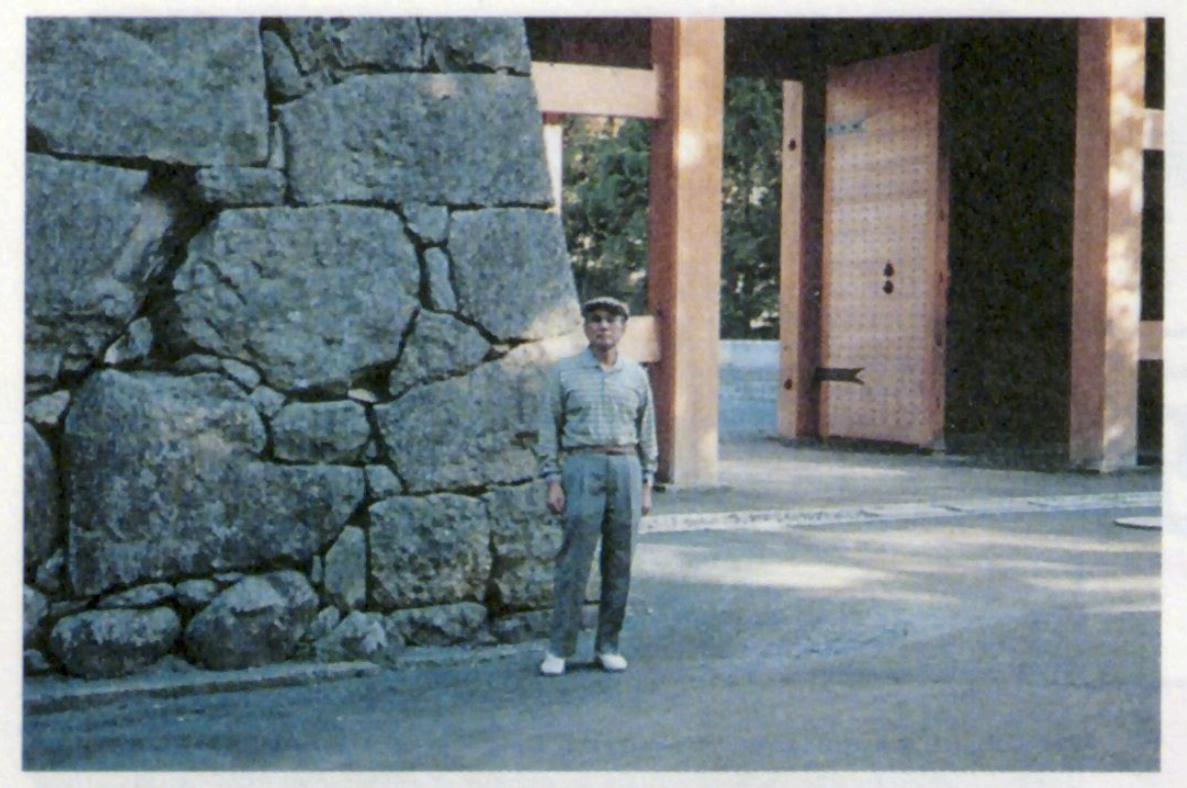
●宇都宮駅東口より徒歩5分●

週40時間、平成９年４月１日の
期限が迫っています

① 御社の週40時間を無理なく適法に実現します。心配ご無用です。お任せ下さい。
② 時短奨励金……平成９年２月までに申請すれば、75万円～375万円受給できます。
※ 受給条件・面倒な手続等、御社の身になって御相談に応じます。お気軽にご相談下さい。

日本賃金年金コンサルタント協会（JWPCA）会員
㈱カネダ総合研究所
経営学博士 社会保険労務士
兼田正広

●お問い合わせは☎028－659－3155 〒321-01宇都宮市北若松原1-2-2 カネダビル



委員長・部会長の'97今年の抱負

豊かさを地域に築く商工会議所

プッシュよりプルへの意識改革

総務委員会委員長 簗 郁夫

21世紀まであと4年となり、内外ともに新しい展開を見せようとしている年を迎えたようです。

去年は、市制100周年記念協賛事業の実行に終始した感がありますが、その様な中でも将来を見据えた新しい動きもありました。

組織・財務関係では、会員1万名増強運動が着々と成果をあげてきておりますし、企画・広報関係は前述の協賛事業を通じて広く市民の皆様に、当会議所の存在をアピールでき、今後の事業がより期待されるようになったと思います。

また、これらの活動を進めることで、市場のデマンドをもととする「プルの経済」に対応する新しい意識が、議員・職員各位に芽生えてきたことは、大変喜ばしいことです。

しかし、今年の大命題が「行政改革」であり、その実行を要望すればするほど今後の補助金等の増額は難しくなるはずです。

昨年の『経済白書』のサブタイトルは「改革が発展を切り開く」でしたが、当会議所自体も生き残りの為のリエンジニヤリングが急務です。

将来の方向を誤らない為には、社会変化を的確に把握して、情報発信ネットワークや人材発掘等の、長期的視野に立った計画策定に着手しなければなりません。当然、現在の事業の再編成も必要でしょう。

昨年は女性部や青年部の皆さんが素晴らしい活躍をされ、当会議所の戦力もアップして参りました。本年が、より稔り多い年であることを祈る次第です。

「都市づくり推進組織の創設に向けて」

街づくり委員会委員長 荒井 祥

近年、地方都市においては都市間あるいは地域間競争などにより都心部の空洞化や都市の魅力の低下などが指摘されており、本市においても徐々にその傾向が現れてきております。

地域活性化のための街づくりは、単に都市施設の整備にとどまることなく、地域独自の歴史や文化ストックを取り入れて、高度な都市機能整備との結合による相乗的な効果を生み出すことが肝要であり、それらに基づく総合的ビジョンの策定が強く望まれております。

昨年度は、建設・通産両省の「21世紀活力圏創造事業」に宇都宮地域が選定され、今後、中心市街地の活性化や個性ある地場産業の育成と国際物流や先端産業ゾーン形式など「21世紀への新産業拠点都市」の実現を目指して積極的に進められることが期待されます。

当委員会では、このような観点を踏まえて、交通網の整備や魅力ある商店街と良好な都市景観の形成さらに都市観光へのビジョンづくりなど、宇都宮圏域の健全な発展を見すえた魅力と賑わいのある街づくりに向けての幾つかの課題を整理し、21世紀へ向けた都市づくりへの意見や提言を行ってまいりたいと存じます。

また本年は、それらを実現していく有効な手法として、民間と行政が一体的に取り組むことのできる「都市づくり推進組織」の創設を図るべく、関係者との協議に着手いたしたいと思います。

さらに、当委員会では、うつのみやの誇れる都市的景観や街の魅力を再発見する「宇都宮の街並み写真コンテスト」の公募を行っておりますので、多くの会員・市民の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

新たな時代を切り開く年に

企業経営委員会委員長 柳田 美夫

昨年1年間を振り返りますと、景気は緩やかな回復基調が続いたものの、回復感があまり感じられませんでした。現在の景気の動向は、従来のように循環論だけではとらえることができず、わが国が抱える構造的な問題に影響を受けているのです。今の日本経済は、右肩上がりの時代を終え、新たな時代への大きな転換期にあるといえましょう。

構造調整が続く中、経営環境は厳しさを増していますが、逆にこうした時代の変化をチャンスと考えることもできます。折しも、宇都宮市は昨年市制100周年を迎え、併せて、中核市へ移行しました。今こそ経営者の皆様が一致団結し、地域の新しい時代を切り開いていくことが重要ではないでしょうか。

宇都宮市を県都とする栃木県は、その地理的条件の良さなどから、中長期的には高い発展可能性が見込まれています。また、国の施策面でも、構造調整への対応として規制緩和が進められております。こうした施策をさらに推進していただき、併せて地域の経営者の皆様がアイディアやノウハウを結集していくことにより、ビジネスチャンスの可能性も高まると思われます。

ただ、地域の活性化を実現させていくには、皆様の経営努力に呼応する一層の助成措置を講じ、中小企業の経営の安定を図ることが必要です。そこで、今年も委員会を中心に検討を重ね、全国の商工会議所とともに関係機関への要請を行い、商工振興に尽力していく所存でございます。

地域国際化を積極支援

国際委員会委員長 出射 聡明

長期化する景気低迷、円高の進行、さらにアジア地域等における産業の成長により、県内産業の様々な分野で競争力の低下がみられ、加えて海外からの逆輸入・開発輸入も急増するなど、今後の業界振興や企業リストラへの取り組みには、世界的な構造変革の動きを視野に入れての推進体制づくりが望まれております。

旧年中に当所が実施した「市内企業の輸出入動向調査」の結果を見ても、多くの企業が一層の国際化の進展に備え、製品の高度化・高付加価値化のための海外進出や技術移転を図っており、その反面では各種海外情報の入手難や現地企業の信用度等での情報不足を訴えておりました。

当商工会議所といたしましても、国内外の商工会議所や日本貿易振興会等との連携を密にしながら、情報ネットワーク作りに着手してまいりたいと考えております。

また、近年、自治体で多くの姉妹都市交流を手掛けておりますが、今後は市民交流にとどまらず、人的交流や経済交流へと発展する兆しがあり、今後は行政と民間一体となった新たな取り組みが必要となってまいります。「地域の国際化」が叫ばれて久しくなりますが、経済のグローバル化を認識し共存共栄できる経済人交流のあり方を模索いたしてまいりますので、会員各位のご指導とご協力をよろしくお願いいたします。

御本丸公園の城址整備実現へ

環境衛生部会部会長 田嶋 光男

昨年、私は「天地人」の随想の欄に、「城址整備一考察」として御本丸公園に大手門を建設してはどうか、又、二荒山神社から御本丸公園へ継がる道路を歴史性の残る街並に出来ないだろうかという、今から考えると大変夢の様な、勝手気ままな考えを述べさせて頂いた。

その後、時間の経過と共に、いろいろな方の話しをお聞きしたり、市制100周年事業としての「うつのみや文化の森公園」や「ろまんちっく村」の完成を見るに付け、文化都市〝宇都宮〟を更に印象付けるものとして、御本丸公園の城址整備を何としても実現したいという願いを一層強くしている。

今、宇都宮市はコンベンション関係の誘致が活発に行なわれ、年間数多くの大会や会合が開催されている。その際のエキスカーションのコースは大体、2時間位が一般的であり、郊外を回る時間的な余裕がないのが実状である。全国各地から、折角宇都宮に来ても、大会会場と宿泊施設との往復だけでは、甚だ淋しいものである。市の中心部に歴史的な建造物が欲しいという根拠は実はこんな所にも有る。それは、大手門であるか、或いは別の違った構想であるかは分からない。夢の実現へ向けて、ただ大事な事は、行政関係への期待だけではなく、市民間の論議と盛り上がりが最も必要な事である。

与えられるものでは決してなく、市民自らが造り上げていくという意識が大切である。更には、出来ることであるならば、当会議所がイニシアチブを取り、その舵取りが出来た時、歴史的な事業としての一歩が踏み出されるのではないだろうか。

年頭に当り、城への憧れを大いに語り合いたいものである。

都市活性化策を第一義に

商業小売部会部会長 斎藤 高蔵

ここ数年続いてきた景気の停滞にも回復の兆しが見られ、全体的には消費の戻りの声も聞かれるようになりましたが、中小小売業に携わる者には、まだ厳しい状況が続いているのが現状と思われます。

昨年は市制100周年にあたり、会議所も数々の協賛事業を実施し、本市中心街の空洞化が指摘されている折に都市活性化事業を展開、しかも成功裡のうちに行なわれたことは大変有意義なことと思われます。これらの事業が今後も継続できるよう、会議所として努力していただいているところであり、期待を寄せております。

本年に入りましても小売業を取り巻く環境は、規制緩和に伴う大型店の出店、4月から実施が予定されている労働時間の週40時間への移行や、小売業にとって特に大きな影響が懸念される消費税改正は、消費の上向きにも水を指すのではと心配されます。

最近の統計を見ても、現在直面している経営上の問題点で、大中型店進出による競争の激化、消費者ニーズの変化への対応が多く取りあげられています。

消費者には、「物」よりも「心」の満足を求めている人が多くなっていますが、これら多くの問題を会議所も共通のことと考えて、問題解決に向けて努力してまいりたいと存じます。

卸売業の明日をめざして

商業卸部長部会長 箕輪 勝朗

昨年の日本経済は、超低金利と一昨年からの積極的な公共投資及び大幅な円高からの脱却により景気回復傾向が強まりましたが、景気の牽引役とも言える「個人消費」・「設備投資」に力強さが感じられず、山積された課題も多いことから、まだまだ実感が沸いてこないのが現状だと思います。

私ども流通業界においても、価格破壊・消費低迷の中で、内外からの規制緩和の要請等、業界を取り巻く環境は依然として厳しく今後はさらに構造的変化が進み、我が国の流通システムは大きく変容すると思われます。例えば商品の低価格化が進行する中で、多段階性の見直しや再編が進展しており、もはや目先の戦術を唱えても卸売機能を強化することは難しく、卸売業の新たな機能を創造する時期にさしかかっております。卸売業は小売業の要求を満たすことによって、得意先の売上、利益の向上を図ることができ、それによって我々卸売業者も自社の発展を図ることができるのです。つまり卸売業が今後も存在価値を残すためには消費者を第一に見据えた、リテールサポートサービス（小売店支援サービス）に、全力を上げて取り組まなければならないでしょう。現在卸売業の置かれている立場は極めて厳しいものがありますが、卸売業者自身が革新の精神に立ち返り、基本的卸機能の充実を図り、特色ある卸売業に脱皮することが大切です。

卸売の経営に情熱を持ち、明日をめざして、小さな歩みでも、歩んでいきたいと願っています。

食文化の未来

食品工業部会部会長 松下 良

長びく不況が転換期を迎えるだろうと言われている昨今にあっても、食品業界はかつてない試練の場に立たされています。

21世紀に向けて我が国人口は確実に減少し、しかも高齢者の割合が高くなる状況は、市場の先細りを意味することでもあります。食品業界の大きな流れでもあるグローバル化は、輸入食品の増大をまねき、低価格化が進行してきています。この様なことは、反面では企業の真価・実力が問われることにもなります。

一方では、戦後50年の食生活のなかで、充足の時代は終り、質にこだわり、更には食を楽しみ、家庭の団欒や人の心を豊かにする食文化は、広く社会に受入れられ、今では飽食の時代とまで言われる様になりました。この様な厳しい経営環境のなかにあって食品業界のとるべき道は、変化する時代の中から必要な情報をタイムリーにとらえ、この情報を企業活動の原動力とすることにつきます。食堂やレストランの外食産業に対して、惣菜・デリカショップ・宅配業などは、中食産業と呼ばれ核家族を背景にした個食化の傾向や、女性の社会進出による家事軽減ニーズにより市場が拡大しています。消費者に魅力ある商品の提供に全力投球できる経営者マインドが、不況克服の近道と思います。

この変革の時代、地域の振興と会員企業の発展に寄与することで、部会の充実を進めたいと思います。

業界発展に奮励努力

一般工業部会部会長 鈴木養之助

昨年のわが国経済は、5年連続の不況から脱せず、厳しい状況が続きました。超円高等を背景に、私達の予想を上回るスピードで産業構造の変化が進んでまいりました。産業界の不況と共に昨年は、社会的に大きな影響を与える様な大事件が次々に発生し、これが消費者心理に影を落とし、不況に輪をかけてまいりました。しかし、昨年後半にはようやく期待感も含め、回復の兆しありとの観測が聞かれるようになってまいりました。今年は、この流れが本格的になることを願っております。

この様な状況から、今年も我々一般工業部会にとって、多くの難しい問題が振り掛かってくると予想されます。産業界の発展のためにも、会員の皆様方の積極的な取り組みを得ながら努力し、奮起していきたいと考えております。

地域経済の振興と発展目指す

建設部会部会長 菊池 功

国の行財政改革の動きの中で建設業界にとりましては、昨年1月のWTO（世界貿易機関）協定の発効に伴う建設市場の国際化や、先の入札・契約制度改革、建設業法改正などの進捗、週法定労働時間40時間への取り組み等、不安と戸惑いの中で、多くの課題が山積しています。

加えて、逼迫している国の財政事情立て直し議論の中で、公共事業の見直しや建設行政に対する国民の関心が高まっており、建設業に携わるものにとっては、誠に憂慮される昨今であります。

この様な情勢下で、我々地域の中小建設業者は、関連業種は勿論、異業種との交流を積極的に推進し、より優れた情報の交換を行ない、行政や経済界に必要な提言をすることが、会員各企業の繁栄に繋ながるものと思います。

建設部会の果すべき役割は、建設業を通じて地域経済の振興・発展を目指すことであります。ようやく明かるさが見えてきた、と言われる日本経済ですが、我々にとっても今年こそ良い年でありますよう祈念するものであります。

女性の社会進出顕著に

女性部会長 中村喜久美

私ども女性部は、設立してはや8年目となりました。この間多くの皆様のご参画を戴き、幾多の事業を通じながら会員相互の「和」が年々高まって来ております。

近年、「こころ」の豊かさを求める時代の流れの中で、女性の意識や行動の変化とともに、社会のあらゆる分野において女性の地位が向上し、多くの女性がめざましく社会進出を続けておりますことを大変嬉しく思っております。

20世紀も残すところ3年となり、女性部といたしましても県都宇都宮の街づくり、環境問題への取り組み等の諸事業を通して時代に対応するために、より一層研鑽を深めながら地域社会に貢献してまいりたいと念じております。

今年は、さらに1人1人のつながりを大切に、女性経営者として自分をみがいていくことの大切さを認識しながら、異業種交流の場や、質の高い意見交換の場など実りある事業展開に努めてまいりたいと考えております。

また、広域的な連携といたしまして、県内5商工会議所婦人会等との交流を図りながら、幅広い事業展開が出来るような懇談会の実現を目指してまいりたいと存じます。

ニーズに応える情報収集を

金属工業部会部会長 鈴木 貞夫

昨年は数年来の円高基調も僅かに円安基調に転じ、長期的な景気低迷も回復の兆しが見え始めたとはいえ、中小企業においては、マイナス基調の進行がストップし、マイナス部分が僅かに減少した程度と、依然厳しい状況にあります。

宇都宮市は市制100周年を迎え、各種イベントが実施されましたが、その事業の一環として宇都宮市農林公園「ろまんちっく村」は、入場者数が当初の予想を大巾に上廻り、目玉商品の地ビールは生産量を上廻る売れ行きで品切れの状態と聞いております。この成功は上手に纏められた企画力の賜物と思います。

当所が実施した「市内中小企業景況調査」によりますと、製造業は新規設備投資について積極的に計画・実施されている、との結果報告がされております。このことは、経営上の課題である製品・請負単価の低減に対処する姿勢の現れと思います。また、衆議院議員選挙も終了し、第2次橋本自民党内閣に行財政改革等を期待し、今年こそはゆるやかな景気回復の年としたいものです。

当金属工業部会と致しましては、地域産業の振興と発展を願い、多様化した需要者ニーズに絶えず目を向けながら、時代の変化に対処すべくタイムリーな情報の収集のため、各種研修会、見学会を実施したいと思います。

地域経済の発展と活性化を

金融部会部会長 河合 耕吉

昨年は宇都宮市制100周年を記念して市をあげて多彩な事業が、成功裡に開催されました。今年はこれを契機として、21世紀に向かい中核都市としての確固たる地位を築いていくためには、官民が一体となって様々な課題解決に取り組む重要な年であると思います。

さて我が国の経済は、バブル崩壊後長かった低迷期を脱し、業種によっては景気回復感に濃淡の差はあるものの、緩やかではあるが景気回復過程に入っているといわれております。しかし、地方の景況は依然として低迷を脱し得ず、底を這ったままの状態が続いているのが実感であり、景気の先行きは予断を許さない状況にあります。また、消費者ニーズの多様化・産業の空洞化・価格破壊等に加えて、日本の「世界の競争力」もここ数年来低下しており、今までの経済法則では対応できなくなっております。

活力ある経済活動を維持発展させていくためには、産業基盤整備の促進・地方分権・規制緩和等、多くの課題を抱えており、これらを克服していく必要に迫られております。

このような状況の中、金融機関にとって、地域との「共生」は必要不可欠であります。地域経済の発展を支える一翼を担っている金融機関として、期待されている役割を確実に、しかも着実に果たすことにより、地域の期待に応えていかなければならないと思います。

金融部会といたしましても、地域経済の発展と活性化の実現のため、更なる努力をしてまいりたいと思います。

北関東自動車道の全線早期着工と完成願う

交通運輸部会部会長 鈴木勘次郎

業界に共通した諸問題の解決や地域を取り巻く交通環境の動向等について情報交換に努めておりますが、旅客・貨物運輸業等の公共性事業に加え、車体整備・販売会社で構成され課題も多岐にわたっております。

特に宇都宮都市圏総合都市計画の策定に基づく、本市の将来的な交通軸や新交通システムの導入、駐車場の整備や公共交通の効率化、また広域都市圏による新規交通需要への対応などを当面の課題として研修しております。

昨年4月に、市街地渋滞解消の切り札として全国初の都市の外縁部を一周する環状道路「宮環」が開通いたしました。年末には北関東自動車道の宇都宮管内区間が、いよいよ着工されました。道路の持つさまざまな機能、それらの有形無形の経済的波及効果は計り知れず、移動時間の短縮や業務展開の拡大など高い関心を寄せている企業も多く、首都圏の機能分散や分権への効果も期待されています。北関東自動車道の全線早期着工、早期完成を願っております。

まもなく消費税が引き上げられるほか、労働時間の短縮問題、規制緩和、産業廃棄物の問題…等々、諸問題が山積しておりますが、果たせる役割と責務を常に考慮して迅速に対応してまいります。

勇躍、新たな起業の年に

情報サービス部会部会長 松本 典文

当部会の構成をみると、あまりにも多岐に亘るため焦点がやや絞りにくい面もありますが、今年度の目標の一端を述べたいと思います。

現下の厳しい経済環境のなか、業種間あるいは企業間格差の拡大は必然的でありますが、重厚長大産業とは異り、比較的小回りのきく業態の多い当部会としては、各企業が従来の事業の継続の中にもいかに次世代に合致するものを見い出すか、つまり、いかに真剣に再構築に取り組むかに、その浮沈がかかっていると言っても過言ではないと思います。また、4年後に迫った21世紀を見据えた期待される業種が多いのも特色で、その典型は通信・情報であり、小粒ながらも特異な分野を受けもつサービス業であると思います。数年来、声高に叫ばれているマルチメディア事業、来るべき高齢化社会を見通した福祉事業、益々深刻化する環境問題に取り組む事業などなど、幅広いニュービジネスへ参画しやすい企業群が存在するのも事実であります。そこで、これらの事業に取り組む姿勢として、先ず視察会・研修会などを実施し、検討会を数多く開催して持てるノウハウを出し合い、積極的な議論を通して実現性の高い結論を出していったらどうかと思います。今年はこうした機会を通じて、更なるビジネスチャンスを求め、失敗を恐れずにチャレンジ精神に徹して、部会員の再奮起の年、新たな起業の年にしたいものと念願している次第です。

創立15周年事業に貴重な体感生かす

青年部部長 辻 博明

7代目の青年部々長に就任して、早1年が経過しようとしています。

この間、記念すべき宇都宮市制100周年を迎え、歴史資産・観光・文化等の素材を有効に生かした都市活性化施策である「うつのみや再発見事業」としての市制100周年協賛事業に参画し、中心市街地の賑わいを体感しながら大きな手応えを得ることができました。

さらに、文化性の高い街づくりを目指し、宇都宮の都市観光や都市機能、都市文化等をテーマに「都市活性化シンポジウム」を開催し、様々な角度から幅広い御意見をいただくことができました。本年は青年部創立15周年を迎えることになりますので、これまで培った経験と各界各層の方々から賜りました貴重な提言やご意見を生かし、さらに歩を進めた〝街づくり〟を発信していきたいと存じます。

併せて、本年は商青連栃木県連会長も兼務致しますので、〝人が接点、地域が原点〟を旨に全国各地で開催される各種会合に積極的に参加し、得られた情報・事例などを単会にフィードバックするとともに、宇都宮の魅力を全国にアピールして生きたいと考えます。

21世紀へのアプローチ
新しい時代の疾風を感じて!!

宇都宮市制100周年記念事業
都市活性化シンポジウム
未来へ拓く都市づくり 今 私達から

No.1

都市活性化シンポジウム
魅力ある宇都宮都市圏への挑戦
河上典子
辻博明
伊藤玲子
菅野国博
井上義信
飯倉穣

総合司会の青年部鈴木統括理事

基調講演 （敬称略）

演題 「魅力ある宇都宮都市圏への挑戦」
講師 日本開発銀行地方開発局地方開発部長 飯倉 穣

セッション

シンポジスト
㈱ろまんちっく村取締役 井上 義信
東日本旅客鉄道㈱上野駅長 菅野 国博
マーケティング・コンサルタント 伊藤 玲子
宇都宮商工会議所青年部部長 辻 博明
アドバイザー
日本開発銀行地方開発局地方開発部長 飯倉 穣
コーディネーター
宇都宮商工会議所青年部理事 宮のまち創造委員会委員長 河上 典子
〔総合司会〕
宇都宮商工会議所青年部統括理事 鈴木 隆之

河上委員長

基調講演でのご指摘も踏まえて、問題点や方策などご意見を戴きたい。

井上取締役

20年振りに宇都宮に住むことになり、その時感じたことは「全然変わらないなあ、いいなあ!。でも、こんなに変わらなくていいのかな。このまま変わらなくていけるのかな。」と、一市民として思った。

広報「うつのみや」の世論調査によると、7割の人が宇都宮に愛着や親しみを感じている。そのうち8割の人が、ずっと住み続けたいと答えている。理由はそれぞれ別々だが共通因子は「便利」だということ。別の所に移り住みたい人は、約1割の人がその意識を持っている。なぜか尋ねると「活気が無くて、田舎的。」「文化・スポーツ・公共施設が少ない」…、この答えにも一つの結果が出ていると思っている。便利なことが阻害要因になっていないだろうか。逆に言うとハングリー精神がないということだ。

開発の素材は沢山あるが住んでいる人には、その価値感が実感できないからハングリーでないのかな、と思っている。例えば、東京からの客は〝餃子の街宇都宮〟で来宇するが、どこの店を案内すれば良いかわからない。点在しているいろんな店があるし、マップもある、駅前に餃子の石みたいなものもある。が、一つの物になっていない。素材があっても、もったいない一例。

ろまんちっく村は、9月14日にオープン。2ヶ月で21万人以上の人が訪ねてくれた。訪れる楽しさは、いろんな物があるからだと思う。マルチコンプレックスでないと絶対楽しくない訳で、地ビールあり、温泉にも入れるし、広い空・芝生は豊富にある。森の散策もできて、買物も、食も、46㌶の中に点在しているのが逆に魅力になっていると思う。計算され尽くしていたら楽しくない。

永い歴史の中で、自然発生的に出来たり、ある物が無くなったりしている街の魅力の方が、はるかにおもしろい。近代的な都市というのは、界隈性とか楽しさという意味では欠落していくのではないかと思う。好きな街は、東京では吉祥寺。大阪でいえば、北より南の方が好き。最先端のファッションの店の横に、100年以上の老舗の店があって、自然発生的に混在した街の方がはるかに楽しい。

宇都宮には、光る素材がいっぱいある。この素材を個性的に磨いて、回遊性を序々に加えていけば良い。ポケットパークもあるだろうし、花・水・木・光もあるだろう。演出や拠点を加えながら回遊性を持たせていけば、充分論議の答になる実力を持っている。

行政とか、商工会議所とか、利害を越えた市民の輪が一つの輪になった時、一気呵成にスピードがあがってくると思う。21世紀まであと数年、結論づけれは行政と平行しながら市民がどの様に具体的に進めていくのか?。個々の人達がどれだけこの街に惚れるか、誇りに思うそのパワーが面になり、それが大きな輪に繋がっていく。やっぱりこの街いいなということが、大事なのではないか、一市民として感じている。

菅野駅長

宇都宮を東京からみると、先ず認知度が非常に低い。作新学院の江川…を言って始めて感触が生まれる。遠い所、特長のない街と思われている。商業都市だろうか、産業都市なのか、それとも観光地？ 名物・名産品は何があるんだろう…、どれをとっても見えてこない。

都市には、発地型と着地型がある。上野駅は発地型といわれているが、宇都宮と同様に上野も浅草も凋落が著しい。アメ横もしかりで、駅を頼りにしていた時代、だまっていても浅草に都民が来てくれた時代、そういうことが過去のことになってしまった。上野の夏祭り、浅草はサンバに加えて京都時代祭りを持ってきたけれども、今一つ決め手に欠いている。

上野にお客を呼ぶのも私の使命の一つで、上野浅草下町キップを作成した。観音様をみて、2階建てバスや水上バスに乗り、花屋敷で楽しむコースで、大変評判をいただいている。寅さんに肖って、上野柴又寅さんキップを作成し活性化している。

〝餃子の街宇都宮〟には、横浜の中華街的なイメージを持っているが、餃子を発信する体制づくりが出来ていない。このままではイメージダウンしてしまう。

車社会とJRの共存化について、大きな問題は宇都宮駅が東西を分断していること。高架駅にすべきでしょう。ネックは車輌基地があることだが、これを宇都宮以北へ持って行き、その基地の上に高層マンションを建てる。ライナーで宇都宮に結べば、計算上は東京まで1時間。この新幹線利用専用マンションは相当賃貸料を安くしても、総合的には利潤を確保できる。

烏山線も電化して日光線に連結する。水と緑の美しい那珂川と世界の日光を結んで観光開発する。また宇都宮は、隣の駅との間が非常に長いので、新駅を作ることも提言。さらに宇都宮に人を集めた時、東西に新しい都市型の鉄道を作るべきでしょう。清原団地と大谷まで運行し、将来は真岡線や日光線につなぐ。そんなことがあっても良いのではないか。

駅東口のJR清算事業団の件は、徹底的に開発すべき。以北に車輌基地を移設すれば、広大な土地になるが、官庁や銀行でなく文化ゾーンを作るのが第1義と思う。また、商業ゾーンを作る。〝世界の街〟を宇都宮に作る。アメリカもヨーロッパもイメージした大きな街で、映画や食事や観光案内・住居とか全部を含めて、〝世界の街〟を宇都宮に誕生させたらおもしろい。

伊藤先生

新幹線で宇都宮の駅に降り、タクシーに乗りドライバーに尋ねると「お客さん、見てくださいよ。駅から中心街までこの有様ですよ、いろんなこと言っても出来ませんよネエ」。宇都宮の気質は、「ちょっとしけてんだよね、何か前向きにおもいきってパッとやることをしない…」。

SYMPOSIUM
UTSUNOMIYA
都市活性化シンポジウム
魅力ある宇都宮都市圏への挑戦
―未来を拓く 地域づくり 今 私たちから―
平成8年11月11日(月)
午後1時～4時30分
受付 正午
栃木県総合文化センター サブホール
宇都宮商工会議所

地方都市における中心街の衰退、特に商業の衰退問題は、全国人口規模50万人以下の都市は本当に持っている。共通する問題は、何か。活性化は出来るのだろうか。ここ1～2年実感していることは、人作り、そのプロジェクト自体を動かしている人間の精神性とか、気持とか、ライフスタイル。ライフスタイルは生活様式とか、目にみえる問題ではなく生活していく時の価値感も背景の中に入った言葉。ライフスタイルはどうなっているか、封建的な事はないだろうか、何かミーティングをしても女性は一体何人出て来ているだろうか。

今日のシンポジウムも、単に大きな夢を画くとか、事実を事実として明確にしていくという姿勢の中で、この様な研究会やプロジェクトを動かさないとどうにもならないと言う、一種のあせりを持っている。

都市の魅力とか都市化の問題、消費社会の中で商業活動が極めて重要になることは明確だが、商業者意識あるいは住民意識の中に、「良い都市にしようと思わなければ、良い物にならない」この意識をどれだけみんなが持てるのだろうか。ハードの街づくりは、景観の美しさ、きれいさ、重層空間を持ったハードの事業であるけれども、それはソフトから動かしていかなければならない。県も、市も商工会議所も、商店街連盟も全部一体になってこういうスタンスのプロジェクトを、一つのプログラムとして組みあげていきませんか。

そしてもう一つ、東京のヤングにオリオン通りから全部宇都宮を歩かせ、オリオン通りの男の子、女の子とディスカッションしてみると、みんなオリオン通り大好きといっている。結構楽しくやっている。これだけ人がいて、売れないというのは何か欠落しているのではないか?と、研究会のミーティングで話してみた。どういう街にしたいのか、どういうことが欠落しているのか文章に書いてもらった。集約すると、中心街が持っている要素は、オリオン通りと2つの大型店。あとはどこを歩いたら良いかわからない。だから、もう1本ストリートを作りたい。建設省や都市計画畑の表現する道ではなく、街の中に生きる道を作りたい。みんなが楽しめる道を、イメージしている。

街というのは、人間の楽しみを享受する空間として計画しましょう。みはし通りに一つのくらしの道づくり計画という街路計画が入ったら、それに商店街の人達をのせていくような、もう一つ通産系の事業を被せていくプロジェクトミックスということに挑戦しなければならない。

重要なことは、その手法とプログラムの構築と、新しいプロデューサとかコーディネーターとか、先導する人間を中核にすえていく事業推進の枠組みに、宇都宮方式がとれるかどうか。商工会議所も頑張っている一つだけれども、一致団結できるかどうか。商業者の方々も、街づくりは協力していくもので、反発し批判するものではない。

なぜなら、自分達の街なのですから。

辻部長

日頃の私のステージは、買物はほとんど近所で済ませている。特別な買物をする時は、街の中に買物にくる意識もあるが東京へ行ってしまう。友人にもそういう人がかなりいる。タクシーで駅までの料金で、東京に行けてしまう。東京には買物以外の魅力もある。

会議とかで中心部にくる時は、私の車がRV車なので駐車場の心配をする。駐車場によっては外車お断りの所も多く、高級外車を乗るような所得層を一般駐車場で断わってしまうのは、商店街にとってももったいないと思っている。交通でも行きやすくてセールスポイントを持ち、人波に流されることなく歩いて楽しい、人にやさしい商店街であるといいなと思っている。10数年後には4人に1人が高齢者の時代。高齢者や障害者にも対処した街づくりを急がなければならない。

商店街の魅力を左右する要因は沢山あるが、駐車場問題もその一つ。街の中は渋滞になるのがわかっているから、時により交通手段を使い分ければ良いが現実にはマイカーを選択する。駅から遠いと電車は利用しにくいし、タクシーは高額で、バスは時間通りに走れない。さらに駐車場間の移動やバス、商業車といわれるバンやワゴン車型の車が、3車線の中で反目しあって交通渋滞が形成されている。

新しい交通手段も考えていかなければならないが、現経済下では既存の交通システムを効果的、効率的に活用することも大切。バス優先レーンやマイカー規制は、一段と街の中に行きにくくなってしまう。むしろマイカーとバスを上手に共存させる、新しいシステムが必要。かつて青年部は、「リンクバスシステム」を提案した。これまでのパーク&バスライドシステムは、日本では根付きにくいと言われている。街の中の校庭地下に駐車場を作り、バスとリンクするような大胆なシステムを提案。さらに地下街を設置、リンクするバスも小型で市役所や県庁、中心商店街、JR駅、病院など、移転しただけで一つの商店街が大変さびしくなってしまう位の施設をうまくラインどりすれば、渋滞緩和になるのではないか。

駐車料金も商店街の協調は勿論、役所も病院の診察もポイント化して加えるような、官民一体となった取組みをすれば活用価値が高くなる。バス料金は均一で山の手線感覚で乗れるバスシステムが、街の中を常々走っていれば街の中の回遊性が可能に近づく。

商業以外の施設が中心部に少ない。宇都宮を表現できるスポットが無い。昨年のシンポジウムで、〝歴史と文化の薫る魅力的な街づくり〟を提案。市制100周年と相俟って、幾つかの歴史的な事業を再現したが、一過性で終わらせるのではなく、日常的にビジュアル的にその姿を見せられ、説明できる場があれば良い。まさしく御本丸公園は最適地で、歴史資料館や山車会館さらに食文化を紹介する施設も提案。餃子だけでなくいちごやせんべいなど、地場産品と気節をうまく合わせて提供する施設。歴史と食だけでは若者の心はつかめないから、若い感性が生きるようなステージも併設すると、素晴らしいスポットになる可能性が充分秘められているのではないか。

一言でいうと、宇都宮の顔づくりを考えていかねばならない。

飯倉部長

郊外化はアメリカでも同様の問題を抱えているが、飽きられる時代にもなっている。若い人が多い街は良いが、年寄りが多くなってくるとこれ程不便なことはない。

中心商店街づくりの成功例として、ロサンゼルスから北へ100マイルいくと、サンタバーバラ街がある。そこにステイトストリートという、人口10万位の町がある。百貨店が4つ位の中心商店街で、少々魅力に欠けるということで西側の道路を全部ストップさせ、道を1本作り地下駐車場を作り徒歩で歩けるような商店街を作っている例がある。アメリカの中心商店街の一例になっている所。

もう1つ重要なことは、都心居住をどう考えるかという事である。これもアメリカの中で90年代の大きなテーマ。1階部分にレストランやショッピングが入って、その上に中流の、あるいは高級住宅を造っていこうという街づくり。日本では昔、下駄ばき住宅といっていたが、宇都宮の場合も再開発という手法は困難であるから、こういう形の資産保有も中心部の方は考える必要がある。

もう一つ、品揃えの問題は商店経営者の意識改革なしに豊富に揃えるのは非常に難しいことだ。サンフランシスコから南へ100マイルの所にモントレーとカーメル。モントレーは水族館ビジネスで成功した。隣町のカーメルは、クリントイーストウッドが市長になっていた町で人口5千人。芸術家が居住し、国際性豊かな建物を作った。始めは静かな住宅街だったが、サンフランシスコの南の方の人がこのカーメルプラザにブランド品を買いにくる。デパートは全く無い。

日本の社会は所得水準が非常に高くなっているので、こういう品揃えに挑戦していくことも商店街には必要だ。

（続く）

（11月11日栃木県総合文化センターサブホールで開催した「都市活性化シンポジウム」の模様を、2回に分けて掲載します。）

まかせて安心の葬儀
感動のセレモニーをお約束します。
お葬式をきちんと執り行うのは
けっこう大変なことです。
ご臨終の時から火葬まで一貫した
北関東互助センターの
トータルサービスシステムに
おまかせ下さい。
電話1本で全国どこへでも花環・生花をお届けします。
慶弔
通産省許可互第3057号
北関東互助センター ☎(028)625-7002(代)
本社／宇都宮市桜5丁目2番11号

セールスマン一人ひとりの課題を明確にする
セールスパワー診断（無料）のご案内!
◆貴社の営業マンに思い当たる節はありませんか？
◆営業会議では改善点が見つからない。そんな経験はありませんか？
◆診断の結果、改善点が明確になります。ご一報下さい!
□営業は「経験、勘、根性、努力」だと思い込んでいる！
□行きやすい顧客の所にばかり行って、新規開拓をしていない！
□他社との差別化要因を顧客に魅力的に伝えられない！
□相見積りを取られ、最終的に競合他社に仕事を持っていかれる！
□アピールポイントが「安く、早く、確実に」だけになっている！
□お客様の無理な要求に四苦八苦している！
□苦労して受注したお客様に効果的な継続提案ができない！
CAグループ
株式会社 白幡経営コンサルタント事務所
宇都宮市石井町2800-16 盛川ビル 2F
TEL：028－663－3395
FAX：028-660-7946

基調講演
魅力ある宇都宮都市圏への挑戦

講師 日本開発銀行地方開発局地方開発部長
飯倉 穣

世界から日本から、各地の参考例をふんだんに紹介しながら基調講演する飯倉部長

第1に、宇都宮の現状をどうみたら良いか。さらに項目に見て魅力ある宇都宮を作っていくにはどうしたら良いか、を話したい。

都市を評価する時、私は
(1)市民所得、(2)都市施設、
(3)消費を中心とする衣食住
(4)過去にどの様なプロジェクトを手掛けてきたか?、
この4つの視点でみている。

宇都宮の市民所得は、平成4年の数値をみると1人あたりの市民所得は318万円。全国と栃木県が大体同じ水準であるので、その水準290万円に比較すると10%位高い。なぜ、市民所得が高いのか。それは産業構造が非常に重要で、宇都宮の場合、1次産業のウエートが低く、2次産業なかでも製造業、製造業のなかでも付可価値の高い、電気・自動車・化学等の産業を誘致してきた。その成果が、今の所得に結びついている。バランスがとれ、レオン自動機のように技術開発の企業もあり、産業面では成功している都市と評価している。

次に、都市施設としての社会資本はどうか。良くみると、日本の中核都市が抱えている社会資本の問題を持っている典型的な例が、道路の問題。道路の舗装率や改良率は万全に整っているか、将来の都市を考えると道路面積の比率。全部の市域に対する道路の面積はどの位あったら良いだろうか。道路は人口20万都市のメイン通りは20m、40万人なら40m道路が必要といわれている。市域に示める道路面積は、ロンドンやニューヨークでは20%を超えている。札幌は20%、名古屋17%、東京10%で、宇都宮は5%位。パリのシャンゼリゼ、仙台の青葉通り、原宿の表参道、名古屋の100m道路、大阪の御堂筋のように、空間としての有名な道路を作るべきである。

輸送・動く人がどういう交通機関に頼っていくべきか、どこの中核都市でも共通の問題。金沢支店も、新交通システム導入で提案をし、研究会を実施している。大量高速公共輸送システムを充実することは、国土の狭い日本にとっては重要な問題。新しい軌道系の輸送手段で改善し、将来的に街の賑わいを取り戻していくよう考えていく。宇都宮は社会資本の水準から言えば、日本の最先端の次、位にあると理解していた方が良い。

衣食住はどうか、消費はどうだろうか。

家計調査を数値的に見ると、ファッションは東京と一緒。魚・肉の消費が少ない。車社会のせいか、酒も少ない。他方、自動車関係の費用が大きい。教育・娯楽の中で、月謝や仕送りが多いから教育に苦しんでいる感じ。全体的に華やかさに欠ける。その華やかさは、どこでとらえれば良いか。年間1人当りのゴミ排出量統計がある。排出量の大きいのは福岡で522kg、宇都宮は430kg。

宇都宮のプロジェクト史を見ると、宇都宮は戦後、人口順では9万人位で日本で10番目前後の大都市だった。仙台も一緒位だった。しかしプロジェクト史をみると、非常に象徴的なプロジェクトに欠けている。プロジェクト的には、若干おもしろ味のない街なのかもしれない。

現状を総括すると、多分宇都宮は非常に住み安い街だと思う。住み安いということで考えれば、市民所得は高いし、都市施設もかなり整いつつある。衣食住も普通で、プロジェクト的には華やかさはないが、全体的には「まあ、いい街だなあ」と多分、ほとんどの人が思っていると思う。

私が感じることは、どうも宇都宮の人は〝自分の都市に誇りを持っていないなあ〟ということ。宇都宮がどんな街と聞かれた時に、「大谷…、餃子…、自転車のワールドカップ…、」何をうったえますか？それが日本の中核都市の抱えている大きな問題で、宇都宮も例外ではない。

簡単に言うと平盤都市と呼ぶが、平盤でない都市にしていくことが我々にとっては必要だなと思う。

（続く）

人材派遣なら
信頼と実績のフジスタッフへ!
オフィス・サービス
■派遣業務
●OA機器オペレーション
ワープロ・パソコン
データ・エントリー
●タイピング
英文・クラークタイプ
●専門的事務業務
営業事務・総務事務
ファイリング
●経理的業務
経理・財務業務
集計・計算業務
●通信関連業務
テレックス
電話交換
●専門的対応業務
秘書
受付・案内
●貿易関連業務
輸出入書類作成業務
■請負業務
毛筆・硬筆
ワープロ文書作成
テクニカル・サービス
■派遣業務
●オペレーション・サービス
データ・エントリーオペレーション
マシン・オペレーション
●CAD・トレース
●通訳・翻訳
■請負業務
●パソコン
データ処理
●製図
●翻訳
●テープ起こし
セールス・プロモーション
■派遣業務
●イベント・展示会
ナレーション・レセプション
デモンストレーション
■マーケティングパワー
●リサーチ
市場情報収集調査
■請負業務
展示会業務・イベント司会
商品デモンストレーション
ディスプレイ
コンパニオン教育
人と企業をネットする人材派遣の
Fuji Staff
富士総合サービス㈱
■宇都宮本社／宇都宮市東簗瀬1-28-23 Fuji Staffビル ☎028-633-2051
■東武駅前センター／宇都宮市宮園町5-33 矢野自動車第一ビル1F ☎028-633-2204
■清原センター／宇都宮市清原工業団地15-1 清原工業団地管理センター1F ☎028-670-5411
営業所／水戸・土浦・高崎・小山・熊谷・郡山・西那須野
労働大臣許可(般)09-01-0003 (社)日本人材派遣協会会員

職場のユニフォーム販売
株式会社 タカヤ商事
UNIFORM&FASHON
早 く!! 納期が早く追加もすばやくお届けします。
安 く!! 最も省略された専門店価格でお安くお届けします。
確実に!! 製品は、当社の定番品であり、同じ品を、いつでも追加できます。
オフィスユニフォーム、作業服、イベント用トレーナー・Tシャツ
ホテル・レストランコスチューム、外食・調理用白衣、名入タオル
宇都宮市岩曽町1377—82 FAX 662-0813
☎ 028-662-0812(代)

日本の慣習を熱心にヒヤリングする研修生

外国人研修生受入事業説明会

宇都宮商工会議所は、平成4年9月から宇都宮市の友好都市である中国斉斉哈爾市から、技術研修生（建設業・製造業）の受入事業を、宇都宮市・宇都宮建設業協会等の協力を得て実施しています。

既に、延べ111名の研修生を受け入れ、市内19社の企業で研修を実施してきました。今回、第5次研修生受入れ説明会を開催しますので、受入れを希望する企業はご参加ください。

研修生は労働者ではありませんので、受入れ条件に多少の制限があります。

日時　平成9年1月24日㈮　13時30分～15時

会場　当所会議室

内容　外国人研修生受入れ事業説明と個別相談

研修生受入れ時期（予定）　平成9年9月1日㈪から平成10年8月31日㈪まで

申込先　企業名、職責、参加者名を当所工業課へ電話、又はFAXでご連絡ください。

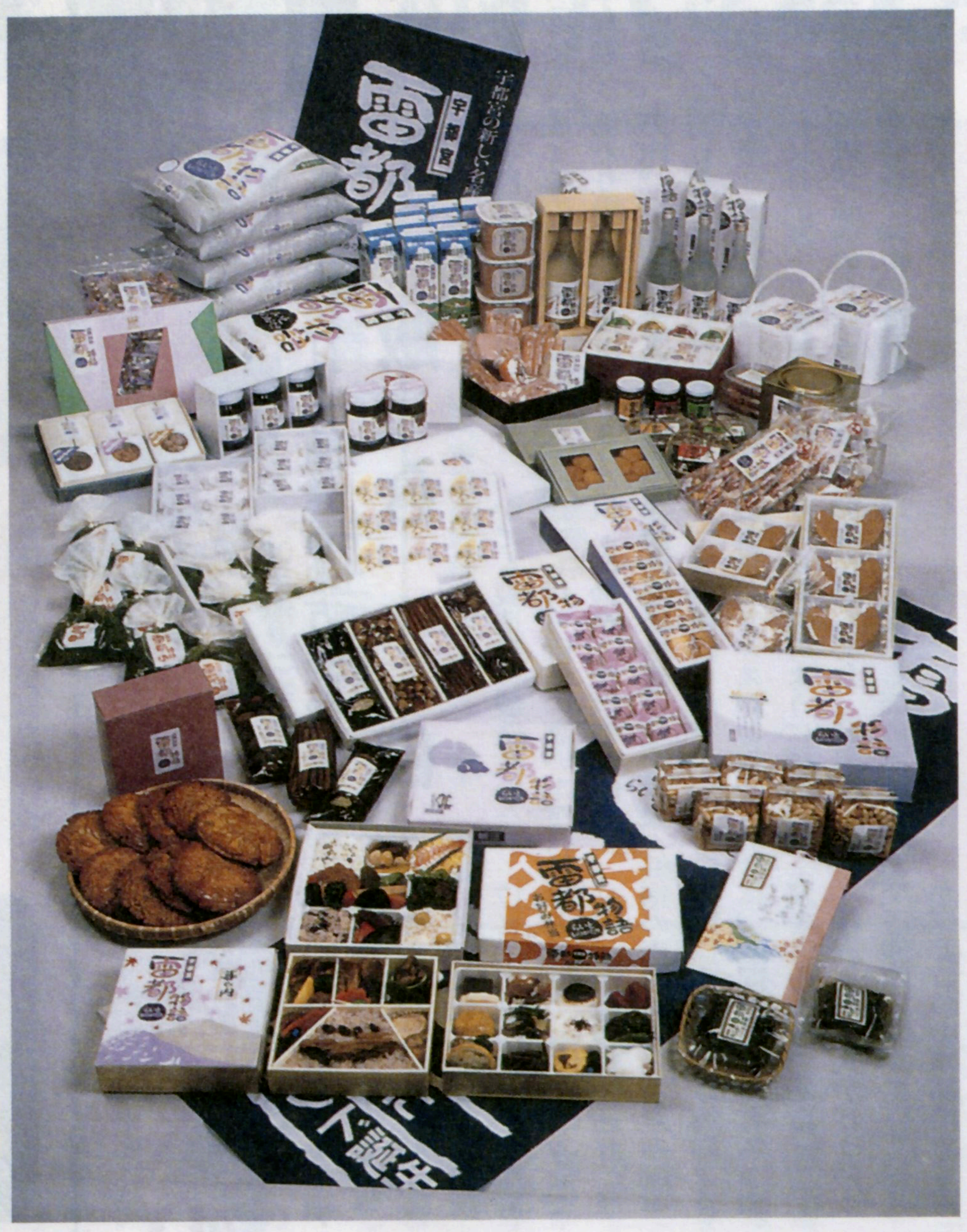
TEL637－3131

FAX634－8694

宇都宮の新しい名産品　雷都物語

ご参加ください

珠玉の逸品を募集



宇都宮の新名産品「雷都物語」は、平成5年に誕生以来数々の名産品を産み、創作童話全国募集、ブランドキャラクター全国募集、各種物産展に参加し様々なPRキャンペーンを重ね、多くの方々にご支持を戴いております。

現在24社、32品目を数えておりますが、さらに第4弾、第5弾と開発・発見・育成を図りたく、事業参加企業を募集することにいたしました。

●**参加資格**　宇都宮商工会議所会員、及び宇都宮市に事業所を有する企業

●**募集食品**　食品

●**申込方法**　詳細は、宇都宮雷都物語事業本部（当所工業課）へ

☎637－3131

お年始のご挨拶は雷都物語からお選びを!!

〔取扱店〕

東武宇都宮百貨店

西武百貨店宇都宮店

上野百貨店

福田屋百貨店

ロビンソン百貨店

参加企業各店ほか

締切せまる！

見つめようわがまち

うつのみやの新春写そう

宇都宮の街並み写真コンテスト

当所街づくり委員会の主催で、「見つめよう　わがまち〝宇都宮の街並み〟」をコンセプトに、自由に表現された作品を募集しています。締切は、2月28日㈮

◎申込先・お尋ねは、宇都宮商工会議所企画課へ

市制100周年協賛事業

雷モチーフにブランドキャラクター募集

当所は、宇都宮の新名産品「雷都物語」のキャラクターを、本年2月10日まで募集開始した。

キャラクターは、雷をモチーフにかわいらしさと親しみがあり、自然、優しさ、故郷、おいしさを感じさせるもの。採用作品は商品パッケージだけでなく、人形などのブランドグッズにも使用する。

最優秀賞には、賞状と副賞10万円（小、中学生の副賞は相当額の賞品）。応募は、プロ・アマ・個人・グループ・年齢・国籍を問わない。作品はB5版の紙を縦に使用して書き、裏面に説明と住所・氏名・年齢・性別・職業（学生は学校名と学年）、電話を記入すること。1人何点でも可。

◆**お尋ねと申込先**

宇都宮雷都物語事業本部

（宇都宮商工会議所内）

第4回

常議員会

都市活性化事業の継続実施支援要望など5案件を承認

当所は、11月25日に平成8年度第4回常議員会を開催し、市への要望書など5議案を審議し、承認した。

「都市活性化事業の継続実施へ係る支援措置要望」は、市制100周年協賛事業として実施した「宮の市」・「城址まつり」・「薪能」・「ライトアップ」等について、市民行事として定着化の要望が強く寄せられていることから、今後、継続事業とするため市の支援措置要望をするもの。また、「宇都宮の都市づくり推進組織の創設支援要望」は、21世紀を見据えた都市活性化を推進するにあたり、行政と民間の連携強化や民間活力の増幅を促す、第3セクター方式による。〝都市づくり推進組織〟創設について市の支援を要望するもので、承認後、市長及び市議会議長に要望書を提出した。

なお、当所の新規会員は93事業所が入会承認され、会員数は8，593事業所となった。このほか、日本団体生命保険㈱の株式取得、並びに取得に係る予算の補正、が承認された。

商い川柳

第3回

荒井宗明選

チョベリバもチョベリグもいて新年会　大沢　広明（宇信金下粟支店）

〔評〕コギャル　マゴギャル　ルーズソックス

大風呂敷広げ通して三ヶ日　T・H（松井ピ・テ・オ・印刷）

〔評〕天下ご免の酒の明け暮れ

残り物だと言わずに福袋　江部　政治（江部酒店）

〔評〕なにかいいことありそうな新春

ハナ金の夜を残業の灯が暗い　T・O（松井ピ・テ・オ・印刷）

一万円の軽さ師走の風に散る　大塚　栄子（コスモ鋼業）

バーゲンに備え下見の眼が光る　大河原信昭（とちぎジャーナル社）

オープンの目玉はやはり記念品　柳田　信也（ヤナギタ商会）

入賞へいよいよ燃える天地人　藤澤　茂夫（宇都宮商工会議所）

月末の財布バーゲン我慢する　福士美枝子（いずみ食堂）

広告の目玉生活（くらし）のたしにする　大河原信昭（とちぎジャーナル社）

パートナー'97の訂正

会員の皆様に贈呈いたしました「パートナー'97」に誤った表現がありましたので、お詫びして訂正します。

9頁　宇都宮城（近世編）上から10行目

㈹誤　櫓は、天守閣に代わるものとして本丸を囲む土塁上にあり、そのほか北櫓、東櫓、辰巳櫓、富士見櫓、清明台櫓の5棟が構築されている。

（正）櫓は、天守閣に代わるものとして本丸を囲む土塁上にあり、北櫓、東櫓、辰巳櫓、富士見櫓、清明台櫓の5棟が構築されている。

“宮の市”の体験今後に活かそう

宇都宮中心商業地活性化研究会が討議

宇都宮中心商業地活性化研究会が、12月2日当所会議室で開催された。

本年度第4回目となる今回は、①新しい道（通り）とポイントの選定、②宮の市の感想と中心部における商業イベントのあるべき姿の2つのテーマについて議論した。

宮の市は概ね好評とする意見が多数を占めたが、商業イベントの本来の目的を再考することが必要…とする意見も聞かれた。

〔主な感想・意見〕

(1)市民と共に自然や既存施設を利用したイベントの展開が、これからの街づくり手法としての可能性を示す結果となった。

(2)面的な広がりの中でイベントを実施すると、人出や滞留時間が増え回遊性が生まれることが実証された。

(3)商店街の連携が図られたことで、今後の協力体制が徐々に構築されつつある。

(4)中心部は、利用できるスペースが非常に少ないことがネック。

(5)商店街は、イベント企画から学んだ人集めのノウハウを活かし、もう一歩踏み込んで個店の売上げに繋げる努力を。

(6)商業イベントであるならば、「商品がもっとダイナミックに動く市」でなければ意味がない。

(7)継続するには商業者がリード役となり規模・内容とも拡充していく必要がある。

(8)イベントを実施するにあたり、商店街の中で参加意欲のある人がどれだけいるか、そして、より多くの人を引き込めるリーダーの統率力が必要だ。

◎新しい道（通り）とポイントの選定については、前回までの検討結果を踏まえより具体的な絞り込みを行った結果、みはし通りと済生会病院跡地が第1候補にあげられた。

次回から、活性化の手法について具体的な研究に入ることになる。